

平成11年「体験学習の森」開設に向けて只今整備中です

自然環境についての情報は刻々と報道され、大規模な森林伐採による地球的規模の環境破壊、絶滅危機にある野生生物やその保護問題、身近で起こる災害など、自然環境への関心は高まっています。

また、長野県においては森林に囲まれた都市が形成されていますが、日常生活は都市部の人工的な環境に囲まれた生活を余儀なくされており、身近に接していない自然は、自分とはかけ離れた世界でしかないと感じている人が多いのではないかと思います。

そこで、長野県林務部では一般県民の皆様が自然とふれあい、森林・林業について学ぶことができる場所として、「体験学習の森」を整備しています。

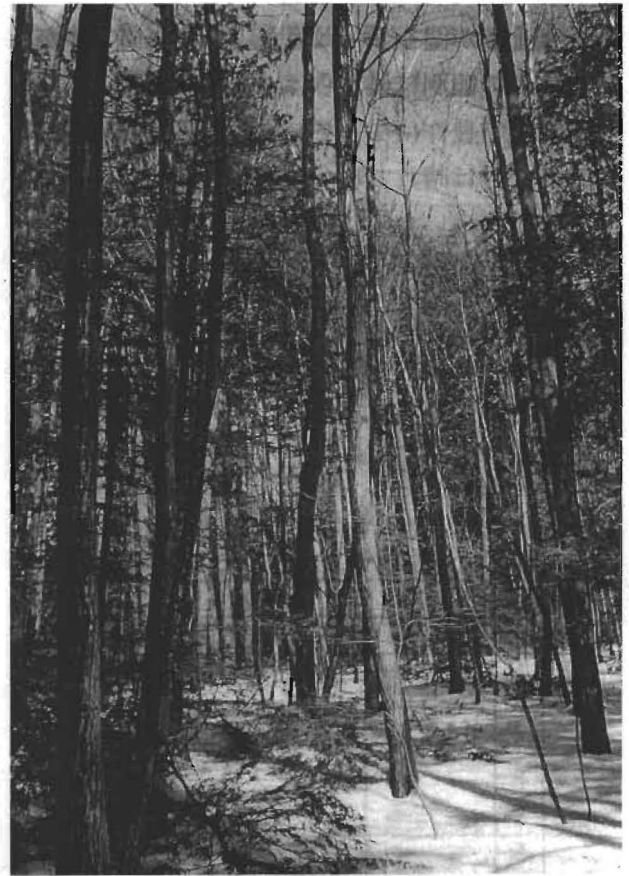
場所は、県林業総合センターと県総合教育センターとの間に広がる、およそ20haのなだらかな森林です。アカマツを主体として、コナラ、サワラ、カラマツ、スギなどが混生しています。また、所々に小さい池や湿地があります。その面積はわずかですが、いくつかの違った環境があるため、様々な生物を観察することができます。

ここには昔の猪土手跡があり、人間の生活と多くの野生動物との共存に苦労した当時の面積を残している森林でもあります。

この森林は3つのゾーンになっています。①一般県民が森林に親しみ、いこいの場として利用できる「ふれあいの森」、②児童生徒・教師、一般県民が林業体験ができる「体験林」、③林業総合センター・総合教育センターが行う各種技術研修のための「学習林及び実習林」です。

平成11年春のオープンを目指して、管理車道375m（幅員3m）、遊歩道1342m、炭焼施設、便所、東屋、広場などを整備することになっています。既存の21世紀の森、森林学習展示館、森林宿泊施設、万葉の小径などと合わせて利用ができるよう

になります。



（森林の状況）

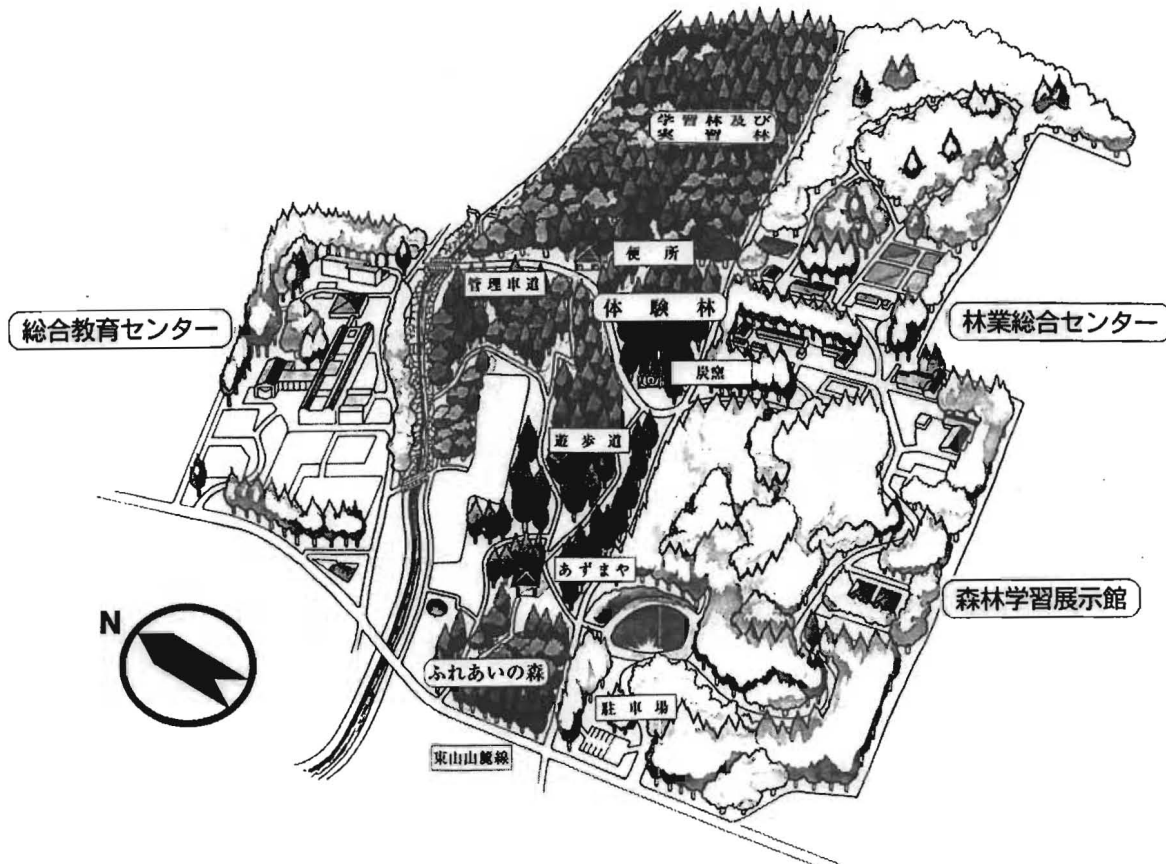
「快晴の日曜日。すがすがしい森林の中で、気持ちよい汗をかき、遠く北アルプスを眺め、松本平を見下ろしながら、御弁当をほおぼる。耳をすますとウグイスのさえずりが今仕事を終えた森の何処から聞こえてきた。私の植えた木は、この野鳥達に餌をあたえる。足元の稚樹は、いつかこの森の長（おさ）になるだろう。我々の生命の泉として。」こんな日記を誰でもが記すことのできる森林が誕生します。

（指導部 開藤）

猪土手：猪など野生動物が山からやって来て田畑を荒らすのを防ぐために、森林と田畑の境に、溝と垣根を何キロにもわたり設置したもの。

森林・林業の実践的教育と森づくりの体験の場

～体験学習の森整備事業～



主な利用計画

森の区分	利用者	内容
ふれあいの森	一般県民 教職員、児童生徒 等	森林の観察利用：生態系の学習、昆虫観察、鳥獣観察、植物観察、キノコ観察、ビオトープ観察、採集と標本づくり、森林教室、草木染め、木の実工作、定点観察 森林散策：ネイチャーゲーム、オリエンテーリング
体験林	一般県民 教職員、児童生徒 緑の少年団 等	植栽、下刈、除伐、間伐、枝打ち、炭焼き体験、自然観察指導、森林作業モデル林設置、キノコ栽培
学習林及び実習林	林業技術研修生 教職員 林業改良指導員 等	測量、測樹、伐木造材、高性能林業機械等研修、作業道開設、架線研修、植栽、下刈、除伐、間伐、枝打ち、キノコ栽培、自然観察指導、試験研究林
(既設) 21世紀の森	一般県民 教職員、児童生徒 等	森林学習展示館、緑の宿泊体験施設 万葉の小径、樹木園